

2016年3月期 第1四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：営業利益率が、前四半期（2015年3月期 第4四半期）より悪化（前4Q：7.2% → 1Q：5.9%）した要因は？

A：変動費率は数 pt 改善したのですが、将来に向けた研究開発費や海外人件費などの固定費が増加したため、利益率を押し下げました。2Q以降はまた、営業利益も改善を見込んでいます。

Q：今期（2016年3月期）の見通し予想を変更した背景は？

（単位：億円）

		上期	下期	通期
8月予想	売上	↓ 1,260	↑ 1,230	↑ 2,490
	営業利益	→ 93	↑ 102	↑ 195
5月予想	売上	1,300	1,180	2,480
	営業利益	93	97	190

A：主力製品の SE（半導体）事業におきましては、元々、下期を低く想定していたところ、上期売上予定案件の下期への変更に伴い、上期、下期、通期を変更しました。加えて、GP（印刷・プリント基板関連）、FT（FPD 事業など）の足元の事業環境が堅調であり、その実状も盛り込んだ予想にしております。

Q：全体：中期経営3カ年計画目標「営業利益10%」達成までの道筋は？

A：「損益分岐点の引き下げ」を目指した収益構造改革（変動費改善への取り組みなど）は順調に進行中です（11月の上期の決算発表時、詳細説明予定）。

Q：半導体機器事業（SE）：前第4四半期（2015年3月期）比での営業利益が下がった（前4Q：11.5% → 1Q：6.1%）要因は？今後の見通しは？

A：従前どおり、変動費率の改善は順調に進んでいますが、研究開発投資を増やしたことと、海外での人員増強（為替の影響含む）に伴った固定費の増加によるものです。2Q以降は、改善していく見込みです（半導体市場は調整局面も織り込み済み）。

Q：印刷関連機器事業（GP）：売上・利益ともに伸長した背景？CTP/POD製品の状況は？

A：前年同期比、国内の CTP 更新需要が堅調であり、売上・利益増加に寄与しました。POD（デジタル印刷機）は、米国で堅調、PE（プリント基板関連）も好調でした。

Q：FPD 機器事業（FT）：4期ぶりの黒字回復、1Qも黒字継続できた理由は？

A：大型 TV 用装置の売上が上がったことです。足元の受注も順調に推移しています。